



東京都高等学校数学教育研究会
 事務局 都立葛飾野高等学校
 事務局長 藤 田 泉
 発行所 都立武蔵村山高等学校内
 編集発行人 加 藤 竜 吾
 都数研Web <http://tosuiken.jp/>

平成 28 年度総会

平成 28 年度総会が、平成 28 年 5 月 21 日(土)13:30 から、都立青山高等学校にて行われた。

会長と来賓(日数教池田先生、教育委員会久保田統括指導主事)のあいさつに始まり、議事の流れは下記の通りであった。

- 1 平成 27 年度事業報告
- 2 平成 27 年度決算および監査報告
- 3 平成 28 年度 役員選出(顧問参与の承認を含む)
平成 28 年度 会長あいさつ
- 4 平成 28 年度事業計画
- 5 平成 28 年度予算
- 6 平成 28 年度役員・理事

議事は全て承認された。主な役員は以下のとおり。

会 長 吉田 亘(大江戸高・校長)
 副 会 長 萩原 聡(江北高・校長)
 北原都美子(啓明学園・学園長)
 事務局 長 藤田 泉(葛飾野高・校長)
 事務局次長 石崎 規生(九段中等・校長)
 宇佐美俊哉(保谷高)
 研究部長 真保 俊哉(神代高・校長)

研究副部長 柴田 誠(大泉中高・校長)
 竹村 恭一(板橋有徳高・校長)
 幸田 諭昭(青井高・校長)
 白田三知永(小松川高・校長)
 定 通 部 長 川澄 秀一(第三商業高・定・副校長)
 編 集 部 長 加藤 竜吾(武蔵村山高・校長)
 編集副部長 奥村 英夫(荻窪高・校長)
 水本 香(翔陽高・副校長)
 大島和華子(狛江高・副校長)
 監 査 官 宮下 義弘(練馬工業高・校長)
 梅原 章司(清瀬高・校長)
 原田 能成(雪谷高・校長)

連携研修特別委員会
 委 員 長 宮下 義弘(練馬工業高・校長)
 70 周年記念行事
 委 員 長 萩原 聡(江北高・校長)

総会終了後、坂井田博史(砂川高)による昨年行われた関東大会(栃木大会)での発表を基にした研究発表、大学入試分科会の毛利哲(新宿高)による研究発表が行われた。(次頁に続く)

文責 編集部 川中子遥(都東大和高)

会長挨拶

会長 吉田 亘(都立大江戸高・校長)



平成 28 年度に新しく会長となりました吉田です。この 10 年間の諸先輩方のお力で、会員数も増え、財務も改善し、活動も活発になりました。その業績を引き継ぎ、都数研が益々専門性向上や情報交換の場として会員皆様のお役にたてるよう努力いたしますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、現在の学習指導要領になり、数学については 5 年が経過しました。ここでは、「数学的活動」を重視し、特に論理的な思考力、判断力や数学的な処理による表現力の育成が求められ、会員の皆さまも授業実践に励まれていることと思います。一方で、既に次期学習指導要領の検討が急ピッチで行われおり、昨年度末の高大接続システム改革会議「最終報告」による大学入試改革、高校教育改革も今年度は具体的な作業に入っています。都数研でも平成 25 年度に特別委員会を設置して、平成 26 年末には、次期学習指導要領に向けた提言を文部科学省に行いまし

た。現在検討されている中味としては、都数研も提言した「数学C」の復活やこれまでのような指導する教材の内容だけでなく、その指導方法、評価法まで含んだ幅広い検討が行われていることが報道されています。

都数研としては、今年度も 6 月、11 月の授業研究、7 月の講演会・研究発表会等において、授業実践を通じた研修や次期学習指導要領も見据えた講演、発表などにより、現場に則し、実践に活かせる研究活動を行っていきます。さらに、若手からベテラン教員あるいは異校種の先生、企業の方など様々な会員による 5 分科会、編集部の多方面にわたる研究活動を通して、生徒が数学の面白さ、必要性和大切さなどを実感できる授業の実現に努力していきます。

また、都数研設立 70 年となる今年度は、「70 周年記念式典、祝賀会」を平成 28 年 1 月 8 日に開催します。多くの会員の皆さまにご参加いただければありがたいと思います。

最後に、日数教の 100 周年事業が平成 30 年に東京で開催されます。開催まで後 2 年に迫り、準備も徐々にスタートしました。都数研も主催団体として関わっていますので、会員の皆さまのご協力が必要です。そちらの方もよろしくお願い申し上げます。